令和5度「文化芸術による子供育成推進事業　出演希望調書(実演芸術)」

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分のみ

複数申請の状況(該当するものを選択してください。)　※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	しゃかいふくしほうじんとっとききん 社会福祉法人トット基金		団体ウェブサイトURL http://www.totto.or.jp
代表者職・氏名	理事長　黒柳徹子		
制作団体所在地	〒 141-0033	最寄り駅(バス停)	JR大崎駅
	東京都品川区西品川2-2-16		
電話番号	03-3779-0233		
ふりがな 公演団体名	にほんろうしゃげきだん 日本ろう者劇団		団体ウェブサイトURL http://www.totto.or.jp/02/index.html
代表者職・氏名	江副悟史		
公演団体所在地	〒 141-0033	最寄り駅(バス停)	JR大崎駅
	東京都品川区西品川2-2-16		
制作団体　設立年月	昭和55年　4月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	理事長:黒柳徹子 理事8名　評議員10名　監事2名	劇団員:22名 劇団代表:江副悟史　顧問:井崎哲也 加入の条件:ろう者または手話のできる18歳以上の男女	
事務体制 (専任担当者の有無)	専任の事務担当者を置く	本事業担当者名	金田弘明
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名	小池紀子

制作団体沿革	1980年　ろう者による「東京ろう演劇サークル」を発足。 1981年　黒柳徹子より「窓ぎわのトットちゃん」の著作権を受領し、社会福祉法人トット基金が設立。 1982年　トット基金の付帯劇団となり「日本ろう者劇団」と改称 1983年　イタリアで開催された「世界ろう者会議」で手話狂言を初披露 1987年　新しいジャンルの演劇を作ったとして文化庁芸術祭賞を受賞（手話狂言） 2000年　創作視覚演劇「カスパー」において主演の池田大輔が芸術祭新人賞を受賞 2002年　内閣総理大臣表彰受章 2004年　「ギリシャにおける日本文化年2004」に参加し、アテネで「手話狂言」の公演 2015年　ローマ、パリにて国際手話で手話狂言の公演を行う。（文化庁国際芸術交流支援事業） 2019年　首相官邸で手話狂言を披露（安倍総理と障害者との集い） 2020年　国立能楽堂主催公演として「手話狂言」を上演 2020年～2021年　さどの島銀河芸術祭参加「手話狂言」を上演 2021年　東京オリパラ2020『インクルーシブNIPPON　Shinagawa発2020能・狂言特別公演』 2021年　第35～36回国民文化祭・第20～21回全国障害者芸術祭参加（宮崎県・和歌山県） 2021年　三宅右近氏と日本ろう者劇団　第31回催花賞　受賞		
学校等における公演実績	1988年度　品川区三ツ木小学校公演体育館（PTA主催） 同年度　　品川区立大崎中学校体育館　演目「二人袴」「しびり」 2005年度　田園調布雙葉中学校講堂　　演目「附子」「梟山伏」 2008年度　同上 2009年度　長野県小諸市芦原中学校体育館　演目「梟山伏」「附子」 2011年度　田園調布雙葉中学校講堂　演目「梟山伏」「附子」 2014年度　同上 2017年度　同上 2021年度　田園調布雙葉中学校講堂　演目「附子」と手話狂言ワークショップ 同年度　　三ツ木小学校体育館　演目「附子」と手話ワークショップ		
特別支援学校等における公演実績	2008年度　県立高知ろう学校　手話狂言「附子」 2017年度　　中央ろう学校、坂戸ろう学園、大宮ろう学園、明晴学園 2018年度　　旭川ろう学校、中央ろう学校、横浜市立ろう特別支援学校、大宮ろう学園、明晴学園 2019年度　　中央ろう学校、葛飾ろう学校、横浜市立ろう特別支援学校、大宮ろう学園、明晴学園 2020年度　　中央ろう学校　ワークショップ7回（12月～2月）、 茨城県立水戸ろう学校 手話狂言「梟山伏」		
参考資料の有無	**申請する演目のWEB公開資料**	有	
	※公開資料有の場合URL	https://youtu.be/TbVnBYk12A8	
	※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID:	なし
		PW:	なし

公演・ワークショップの内容　　【公演団体名　日本ろう者劇団　】

対象	小学生(低学年)	○
	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○
	中学生	○

企画名	楽しく手話を学ぼう　手話狂言「附子」
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	**◆第一部　手話狂言「附子」** ・事前のワークショップとは一転して、体育館に設けた本格的な能舞台をご覧いただきます。 ・お話:狂言の見方、手話狂言の魅力、「附子」のあらすじなどを、狂言師が実演を交えながら、わかりやすくお話します。(20分) ・手話狂言「附子」の上演:ろう者劇団の俳優による手話の演技に、狂言師が言葉をあてて、聞こえる人も聞こえない人も同じように鑑賞していただきます。(20分) 休憩(15分) **◆第二部　手話狂言ワークショップ** ・ワークショップ:狂言の所作・台詞、手話狂言の演技を鑑賞者全員で体験します。(25分) ・Q&Aコーナー:生徒からの質問に出演者が答えます。(10分) 演出:三宅右近/構成・監修・振付:三宅近成 公演時間　90　分

著作権、上演権利等の許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当あり	該当コンテンツ名	手話狂言「附子」
	該当事項がある場合 / 権利者名	日本ろう者劇団	許諾確認状況	内部保有

演目概要	**◆出演：太郎冠者、次郎冠者、主人** ろう者の俳優による手話の演技に、狂言師が声を当てることによって、聞こえる人も聞こえない人も同じように楽しめる、「手話狂言」の代表作の一つです。会場に設置した能舞台の上で、したたかに、たくましく生きる中世の人物像が笑いとともに描かれます。 **(別添-手話狂言)**
演目選択理由	「一休さんのとんち話」の原型であり、国語の教科書にも採用されていた演目です。 登場人物の生き生きとした対話、扇であおぎながら附子に近づく大胆なしぐさ、おいしそうに砂糖を食べる表情、掛け軸や天目茶碗を壊す時の擬音(効果音)の面白さに、生徒たちは何もない能舞台の上で繰り広げられる出来事に、大いに想像力を膨らませます。そして「附子」を食べてしまった二人の機智に富んだ言い訳に、思わず声をあげて笑ってしまうことでしょう。平易な話し言葉で演じられる狂言の魅力がいっぱいにつまった作品です。 **(別添-附子)**
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	・事前のワークショップで習った手話がどのように手話狂言の中で用いられたのか、みなさんに尋ねていきます。 ・ある場面を、狂言と手話の演技で見比べながら、手話狂言がどのような稽古を経て演じられてるのか知ってもらいます。 ・狂言の代表的なセリフ「このあたりのものでござる」という名乗りを手話で演じましょう。 ・さらに理解を進め、全体が二手にわかれて、手話狂言の台詞の掛け合いを演じてもらいます。 ・狂言や手話についてのいろいろな疑問について丁寧にこたえてゆきますので、出演者に積極的に質問していきましょう。 **(別添-手話狂言WS)**
出演者	・日本ろう者劇団 井崎哲也、江副悟史、五十嵐由美子、小泉文子、砂田アトム、廣川麻子、數見陽子、鈴まみ、長谷川翔平、五日市十夢 ・手話通訳 田家佳子、井本麻衣子、小松智美、長谷川さとみ ・狂言方和泉流 三宅右近、三宅右矩、三宅近成、金田弘明 など、以上のうち9名。**(別添-出演者)**

本公演従事予定者数(1公演あたり) ※ドライバー等訪問する業者人数含む	出演者:　9　名 スタッフ:　4　名 合　計:　13　名	運搬	積載量:　2　t 車　長:　4.7　m 台　数:　1　台

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	10:00	10:00～12:30	13:30	10分	15:00	17時00分
	※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。					

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月
	18日	16日	10日	16日	17日
	11月	12月	1月	計	121日
	16日	16日	12日		
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。				

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	全校生徒(制限なし)
		鑑賞人数目安	全校生徒(制限なし)

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出やがわかる写真)

体育館フロア上に能舞台を設置した場合です。

正面から見る他にも、脇正面(能舞台横から)、中正面(能舞台斜め方面から)と、舞台を取り囲むようにして手話狂言をご覧いただきます。

本来の能楽堂を体験できます
鑑賞する生徒と近い目線で演じるため、演者と観客との一体感を味わえることでしょう。

舞台設営スペース:
体育館端より幅12m×奥行き9mです。

※ステージ上に楽屋を設けます。また、体育館縦向きでの設置が基本となりますが、体育館の形態、観客数によって、横向きの設営も可能です。

※採択決定後、採択団体へ図面等詳細の提出をお願いします。

体育館ステージ上に能舞台を設営した場合です。

観客数が500人以上といった大人数の際に、広くご鑑賞いただけます。

ステージの規模に応じて能舞台を設営しますので、特に規定は設けません。

※楽屋はステージ左側の体育館フロア上に設けます。(3m×6m)
ステージ袖にしかるべきスペースがある場合はそちらを楽屋にいたします。

【公演団体名　日本ろう者劇団　】

児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	10人～800人

ワークショップ 実施形態及び内容	標準：90分 ①本物の「ろう者」と会おう！（10分） 体育館に集まった子供たちの前に、日本ろう者劇団のろう者2人（講師）が登場します。まず最初に、手話通訳を通じて、ろう者と生徒たちの間に円滑なコミュニケーションが取れることをお話しします。 ②「ろう者」を知ろう！（10分） 全国にいるろう者の数や、ろう者の生活、他の障害と比べて外見ではわかりづらいなど、「ろう者の日常」を話し、皆にとって身近な存在であることを知ってもらいます。 ③「ろう者とのコミュニケーション方法」を知ろう！（15分） 例題として、ろう者が財布を落とした時、どのように呼びかけるかを考えてもらいます。そこから、ろう者とのコミュニケーションをどのように取ればいいのかをクイズ形式で答えてもらいます。 ※紙に書いて伝える「筆談」、指で文字を書く「空書き」、口の形を読み取る「口型」など、思いついたコミュニケーション方法を答えてもらいます。また一般的に行われる口型では判断しづらい言葉（「かに」→「あい」「はし」「かい」などに誤解）があることを実際に体験し、理解してもらいます。 ④「手話」を知ろう！（20分） 数字「1～10」の表現を覚えてもらい、子供たちへ「年齢は？」「今日は何月何日？」「小学何年生？」などを問いかけ、実際に手話で答えてもらいます。 また、食事関連の表現「美味しい」「まずい」「甘い」「辛い」を体験し、生活に身近な手話を学びます。 ※国によって手話が異なることや、手の動きに表情が加わることで意味が補完されることを学びます。また、手話狂言に用いられる手話を覚え、本公演で発見する喜びも味わってもらいます。 【休憩】自由に講師たちとの交流を持ってもらいます。（10分） ⑤ジェスチャーゲーム（20分） 子供たちでペアを組んでもらい、一方が目をつぶっている間に出されたお題を、ジェスチャーでどのように相手に伝えるか、ゲーム感覚で行なっていきます。 ※「伝えたい」という気持ちを大事にすることから、双方の不理解の壁を壊し、コミュニケーションを図る自信をつけてもらいます。 ⑥さいごに（5分） 「ありがとう」の手話を学び、お互い「ありがとうございました」を手話で表現しあって終了となります。
ワークショップの ねらい	普段、子供たちにとって「ろう者」と実際に会って、コミュニケーションをとる機会は決して多いとは言えません。ワークショップを通して、ろう者を前に「どうしたらいいかわからない」という不安を取り除いて、「通じた」という喜びを味わってもらいます。 そして聞こえる世界とはまた違った「ろう者」の世界を理解することで、「ろう者って私たちと変わらないんだ」「ろう者でも楽しく過ごしているんだ」と見方を変えるヒントを提供できればと考えます。 また手話というコミュニケーションツールを楽しみながら学んでいくことで、ろう者と聴者で一緒にものを作る喜びをも知っていただけたらと考えます。 この体験が、ろう者のみならず、様々な障がいを持つ人々や外国人、ひいては自分と異なる「他者」への理解と繋がりをもち、子供たちがこれから生きる未来に活かすことができたらと願います。
その他ワークショップに 関する特記事項等	 事前ワークショップでは、特に舞台を設けず、子供たちとの境界をなくし、ホワイトボード（学校所有を拝借いたします）を用いて、手話のさまざまな表現、コミュニケーションのあり方を説明していきます。 手話通訳を介して、時には生徒に質問したり、逆に質問されたりなどしながら、全体とのコミュニケーションを豊かに図りながら進行していきます。

リンク先	No.2	【公演団体名	日本ろう者劇団	】

演目選択理由

手話狂言とは

能楽について

わが国の代表的な伝統芸能である能と狂言は、
およそ７００年前の室町時代初期に成立したもので、
両者は合せて「能楽」（のうがく）という名称で呼ばれています。
近年、能楽は、舞台芸術として国内外で高い評価を得ており、
２００１年にはユネスコの世界無形遺産の一つに選ばれています。

狂言について

狂言は「笑い」の劇、喜劇です。
能とは対照的に中世庶民社会の日常や、
民間説話を素材として、
普遍的な人間像を描き出しています。
洗練された骨太の芸は、
和やかな楽しい笑いをもたらしてくれます。

手話狂言

狂言のセリフは室町時代から江戸時代までの古いことばです。
昔から継承された狂言特有の動き、運びをそのままに、手話表現の研究を重ね、
古典芸能にふさわしい手話狂言を作ることにつとめました。

狂言方和泉流・重要無形文化財保持者、三宅右近氏の指導のもと、
手話のセリフと声のタイミング、間の取り方にも工夫を重ね、
古典芸能の強靭さと、手話の豊かな表現力をあわせもつ、手話狂言が誕生しました。

狂言の台詞を、手話と声の両方で、表情豊かに表現しますので、
聞こえる人も聞こえない人も同じように楽しむことができます。

A区分・B区分・C区分共通

別添

リンク先	No.2	【公演団体名	日本ろう者劇団	】

演目概要

手話狂言　附子（ぶす）

ご主人さまから留守番を言いつけられた
太郎冠者と次郎冠者。
主人は手桶を持ち出し、「この中には、
その毒気にあたっても死んでしまうほどの
猛毒『附子』が入っているから、
気をつけて番をするように」と言いつけます。

『附子』を前に二人は興味津々。
なんとか手桶の中を見てみようと、
毒気に当たらないように
扇であおぎながら『附子』に近寄り、
手桶の蓋を開けました。

中に入っていたのは何と砂糖。
当時砂糖は大変な高級品なので、
主人は二人に食べられないように、
中身が「附子」だと嘘をついていたのです。
砂糖とわかってしまうと、
たちまち二人は平らげてしまいました。

砂糖を食べてしまった言い訳をしようと、
二人はご主人の大切にしていた
掛け軸やお茶碗などのお宝をこわして、
嘘泣きをします。
いったい二人はご主人に、
どんな言い訳をするのでしょうか？

演者は能舞台という何もない空間の上で、附子や掛け軸、天目茶碗など、そこにないものをあたかも存在するように演技をします。そこには室町以来の伝統を受け継ぐ、厳しい稽古によって培われた型を要します。
手話狂言を実際に鑑賞してみると、古来からの研ぎすまされた型の演技に加えた、手話表現の多彩な魅力に気づかされます。手話の知識がなくとも、観ているうちにだんだんと手話の内容が感覚的に理解できるようになってくる体験をぜひ味わってください。
わかりやすい言葉と、たのしい動きのある手話狂言「附子」は、手話を理解する入門編としても最適な演目です。

リンク先	No.2	【公演団体名	日本ろう者劇団	】

〝児童・生徒の共演、
参加又は体験の形態〟

手話狂言ワークショップ

手話狂言「附子」を見て

事前ワークショップで覚えた手話が手話狂言の中に出てきました。
わかった人はみなさんの前でその手話を発表してみましょう。

狂言と手話狂言

狂言の一場面を、狂言と手話狂言それぞれで演じてみます。
「名乗り」「道行き」といった狂言の代表的な場面が、
どのように演じられるのか、同じ場面が手話狂言になると、
どのように表現されるのか、その違いを見比べてみましょう。

セリフに挑戦

代表的な狂言の名乗りのセリフ、
「このあたりのものでござる」を、
たった一言ですが、手話の速度、
動きの大きさに気をつけて演じてみましょう。

手話狂言を演じてみよう

最後に狂言の一場面を皆さんに演じてもらいます。
二つのグループに分かれて、
狂言のセリフの掛け合いを、手話で演じてみましょう。

覚えた手話を発表

手話狂言をみんなで演じます

手話狂言「附子」をご覧になったところで、事前ワークショップで習った手話の確認をします。そして手話狂言がどのような稽古によって成り立っているのかを説明し、日本ろう者劇団の俳優と、狂言師との二人三脚で演じる様子を舞台上で実演します。
鑑賞の生徒には手話狂言を実際に演じてもらうことで、自己の表現力を高めるほか、Q&Aコーナーでは出演者に積極的に質問をすることによって、コミュニケーション能力の向上を目指します。

リンク先	No.2	【公演団体名	日本ろう者劇団	】

出演者

社会福祉法人トット基金　理事長　黒柳徹子よりご挨拶

日本ろう者劇団のレパートリーの中で、最も力を入れているのが手話狂言です。なにもかも手探りの「世界ろう者演劇祭典」（1983年）に参加したイタリアのパレルモが、はるか昔のことのように思えます。 あれから、演目も少しづつ増え、日本各地、世界各国のお客様に喜んでいただいています。「狂言って、こんなに面白いって知らなかった！」見終わった後、こうおっしゃるお客様がたくさんいらっしゃるのも嬉しいことです。とにかく楽しんでいただけることは絶対です。ぜひ、ご覧いただき

～　主な出演者・講師紹介　～

日本ろう者劇団代表・江副悟史（えぞえさとし）

両親・兄ともにろう者の家庭で育つ。2008年、社会福祉法人トット基金（理事長：黒柳徹子）付帯劇団「日本ろう者劇団」入団以降、視覚演劇公演および手話狂言公演に多数出演。2017年より当該団体代表に就任。東京オリンピック・パラリンピック関連イベントにも携わり、手話狂言を披露。演者としては勿論、劇団代表として様々な分野でのろう演劇普及に尽力、現在に至る。その他経歴として、2009年NHK「こども手話ウィークリー」にて最年少キャスターとして抜擢。その後NHK「ハートネット」 「ろうを生きる難聴を生きる」 「手話で楽しむみんなのテレビ」 など福祉番組に多数出演。映画やドラマなどの出演、手話指導・監修にも携わる。NHKBS「しずかちゃんとパパ」では主演・笑福亭鶴瓶氏への手話指導を行い、 「第48回放送文化基金賞」 にて同番組が優秀賞を受賞、笑福亭鶴瓶氏も演技賞を受賞した。俳優・手話指導のほか、年間50本ほどの講演もこなし、全国各地で活動の場を広げている。

日本ろう者劇団・砂田アトム（すなだあとむ）

県立松山ろう学校小学部の時から演劇に興味を持ち舞台に立つ。1999年「カスパー」以降、「永遠の一夜」、「ある砂の家族」、「翼のない天使」に客演。2002年手話狂言「鐘の音」初舞台とともに入団。2003年～2010年各自主公演に出演。劇団外でも映画、舞台、テレビ、ビデオで活躍している。現代劇・時代劇・コメディーなどジャンルは幅広く、舞台監督や舞台美術もこなし、イラスト個展も開催。2013年仏クランドイユ演劇祭招待作品「アトムのひとり芝居」は世界各国からの参加者で大盛況、国際的にも活動の幅を広げている。

日本ろう者劇団・鈴まみ（すずまみ）

1996年入団。同年アトリエ公演「デフ・パラダイス」でデビュー。手話狂言、創作劇に多数出演。2003年～2005年 制作も担当。外部出演では1998年イスパシオ「乗合馬車のキップ」、2000年みずノ卵公演vol3「コクトーの遺言」、2002年風の市プロデュース・シアターX提携公演「雨月」、2002年演劇企画室千里魚眼「アルトーの黙示録」他、2010年劇団しゅわえもん「ブンナよ、木からおりてこい」、2011年「あらしのよるに」、2017年うごく作品VOL.1、2019年VOL.10、2019年濃淡公演VOL.01に参画。2020年全日本ろうあ連盟創立70周年記念映画に出演。座・高円寺劇場創造

狂言方和泉流・三宅近成（みやけちかなり）

能楽師狂言方和泉流。祖父は人間国宝・世三宅藤九郎。父、重要無形文化財保持者・三宅右近に師事。3歳で「柑子俵」 にて初舞台に出演して以来、2004年「三番叟」、2007年「釣狐」 、2012年「金岡」、2015年「花子」といった秘曲、大曲を披く。能楽堂の能会の他、全国の会館での一般公演、小中高校生対象とした芸術鑑賞教室などに多数出演。狂言方としての活動の他にも、オペラ、現代劇にも出演する傍ら、落語や紙切りなどの演芸やミュージカルとのコラボレーション企画もプロデュースしている。手話狂言には自ら手話を用いて日本ろう者劇団の指導にあたる一方で、2014年の手話狂言公演「初春の会」の「髭櫓」でシテを勤めた。2016年より行われている「手話能」 では、能の出演者が手話と同時にセリフを言う全国でも初めての試みが行われ、以降、全公演に間狂言として出演、高い評価を得る。公益社団法人能楽協会会員及び東京支部常任理事。社会福祉法人トット基金理事役員。